

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	美術	9・開隆堂	美術 1 美術 2・3
取 扱 内 容	○ 絵や彫刻については、第 1 学年では、身近な人の姿や自分の大切にしているものを観察して絵を描いたり、材料の形や色彩、質感などの特徴を生かして表したりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動ができるようになっている。第 2,3 学年では、墨の濃淡や筆遣いによって、空間の広がりや奥行きのある絵を描いたり、さまざまな出来事や心に残る情景を立体的に表したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動ができるようになっている。 ○ デザインや工芸については、第 1 学年では、身のまわりにある形や色彩から模様を考えたり、木の特徴を生かした使いやすい工芸品をつくったりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動ができるようになっている。第 2,3 学年では、世界観や魅力を伝えるためのイラストレーションのデザインを考えたり、使う人々が心地よく過ごせる空間のデザインを工夫したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動ができるようになっている。 ○ 鑑賞については、第 1 学年では、作品を見て、それを味わい、自分で感じたことから作者の意図や自分なりの解釈について話し合う活動を通して、表現の工夫や美術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わったりする活動ができるようになっている。第 2,3 学年では、図屏風や水墨画のよさや美しさについて話し合う活動を通して、たくさんの芸術家の作品に影響を与えた美術文化についての理解や見方を深めたり、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わったりする活動ができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第 1 学年では、「イメージを伝える形」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、ロゴタイプの形や色彩について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第 2,3 学年では、「イメージを形にして」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、自分の思いや材料などをもとに表現方法について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。		
内 容 の 構 成 ・ 排 列	○ 内容の構成・排列については、第 1 学年では、「ずっと木といっしょに」の題材において、木目を生かして、握りやすいナイフを紹介し、家庭科との関連する写真等で示すなど、教科等横断的に学習することができるようになっている。第 2,3 学年では、「文化を守り、育む」の題材において、捨てずに資源として再利用する南部裂織を紹介し、社会科との関連を写真等で示すなど、教科等横断的に学習することができるようになっている。 また、北海道（胆振・苫小牧）にかかわりのある内容については、第 1 学年において、「イメージを伝える形」では札幌市き章が、「鑑賞ってなんだろう」では、舟越桂の作品が取り上げられている。また、第 2, 3 学年において、「目にとまる 心にとまる」では、地域の魅力を紹介するポスター構成において、小樽が取り上げられているほか、「持続可能な未来へ」では、ウポポイが取り上げられている。		

使用上の配慮等	○ 表紙に凹凸があり、特徴のある手触りとなっている。また、巻末で、「学びの資料」（全学年）として、表現活動や制作する中で必要と知識や技法などを紹介したり、「持続可能な未来へ（第2,3学年）」では、ウポポイを紹介したりするなど、意欲的に学習できるよう工夫されている。 ○ 題材の冒頭で、生徒に身に付けさせたい力をマークや囲みで示したり、全学年の題材の随所で、学習のポイントを示したりするなどして、主体的に学習できるよう工夫されている。（全学年） ○ 全ての生徒が学習しやすいよう、各題材の内容ごとに色で示したり、用具の安全な使い方や配慮すべき内容についてマークを示したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。（全学年）
その他	○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	美術	38・光村	美術 1 美術 1 資料 美術 2・3
取 扱 内 容	○ 絵や彫刻については、第 1 学年では、身近な人のもつ雰囲気を、表情やしぐさから捉えて絵を描いたり、自然物の美しさや特徴などを形や色彩、質感などから捉えたりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動ができるようになっている。第 2,3 学年では、目の錯覚を利用して形や色彩のトリックを使った絵を描いたり、空想の世界の動物を立体に表したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動ができるようになっている。 ○ デザインや工芸については、第 1 学年では、形や色彩が見る人に与える効果を理解してロゴマークのデザインを考えたり、使いやすさや装飾の美しさを考えて焼き物をつくったりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動ができるようになっている。第 2,3 学年では、地域の魅力を表すパッケージのデザインを考えたり、人々が利用しやすい公共施設のデザインを工夫したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動ができるようになっている。 ○ 鑑賞については、第 1 学年では、版画の線や面、色の重なりなど表現のよさや特徴について話し合う活動を通して、版画と絵の表現の違いや美術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わったりする活動ができるようになっている。第 2,3 学年では、浮世絵の大胆な構図と明快な色彩など、日本の美術と西洋の美術に与えた影響について話し合う活動を通して、我が国の伝統的な美術作品についての理解や見方を深めたり、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わったりする活動ができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第 1 学年では、「心ひかれるこの風景」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、身の回りの風景を描いた作者の思いや表現の工夫について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第 2,3 学年では、「あかりがつくる空間」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、様々な光を与える印象や効果について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。		
内 容 の 構 成・ 排 列	○ 内容の構成・排列については、第 1 学年では、「暮らしをいろどる文様」の題材において、エッシャーの敷き詰め模様を紹介し、数学科との関連をコラム等で示すなど、教科等横断的に学習することができるようになっている。第 2,3 学年では、「メッセージを伝える」の題材において、ポスターなどの広告に入るコピーを紹介し、国語科との関連をコラム等で示すなど、教科等横断的に学習することができるようになっている。 また、北海道（胆振・苫小牧）にかかわりのある内容については、第 1 学年では、「印象に残るロゴマーク」において、ウポポイのロゴマークが取り上げられているほか、「芸術祭へ行こう」において、札幌国際芸術祭が取り上げられている。第 2,3 学年では、「環境とともに生きる彫刻」において、イサム・ノグチの大通公園に設置されている作品が取り上げられているほか、「北と南の民族衣装」では、アイヌの民族衣装が取り上げられている。		

使用上の配慮等	○ 巻頭や巻末において、谷川俊太郎の詩の一部を取り上げている。また、巻末で、「学習を支える資料」（全学年）として、美術作品の鑑賞方法などを紹介したり、「北と南の民族衣装」（第2,3学年）では、アイヌ民族の伝統的な衣装を紹介したりするなど、意欲的に学習できるよう工夫されている。 ○ 題材の冒頭で、生徒に身に付けさせたい力をマークや囲みで示したり、題材の随所で、学習のポイントを示したりするなどして、主体的に学習できるよう工夫されている。（全学年） ○ 全ての生徒が学習しやすいよう、各題材の内容ごとに色で示したり、別冊資料によって技法や用具の安全な使い方、配慮すべき内容についてマークを示したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。（全学年）
その他	○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	美術	1 1 6 ・ 日 文	美術 1 美術との出会い 美術 2 ・ 3 上 学びの実感と深まり 美術 2 ・ 3 下 学びの探求と未来
取 扱 内 容	○ 絵や彫刻については、第 1 学年では、身近にあるものや愛着のあるものをよく見て絵を描いたり、木の枝や石、廃材などの形や色彩、質感を生かして表したりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動ができるようになっている。第 2, 3 学年では、視点の違いや構図を工夫して印象の変化を生かして絵を描いたり、動物の特徴やイメージを立体に表したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動ができるようになっている。 ○ デザインや工芸については、第 1 学年では、自然物や人工物の特徴から模様を考えたり、木の質感や特性、形や色彩に着目し、使う場面を考えて道具をつくったりする活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、美しく表現する活動ができるようになっている。第 2, 3 学年では、布の質感や染色の技法を生かしたデザインを考えたり、過ごす人の思いなどを考えて環境のデザインを工夫したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する活動ができるようになっている。 ○ 鑑賞については、第 1 学年では、原始美術の造形的なよさや意図について話し合う活動を通して、当時の人々の願いや作者の意図や美術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わったりする活動ができるようになっている。第 2, 3 学年では、現代美術の美しさや面白さについて話し合う活動を通して、作者の意図と創造的な工夫などについての理解や見方を深めたり、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わったりする活動ができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第 1 学年では、「材料に命を吹き込む」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、身の回りの材料などの形や色彩の特徴について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第 2, 3 学年では、「魅力を伝えるパッケージ」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、中身のイメージをもとに美しさや伝達の効果について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。		
内 容 の 構 成 ・ 排 列	○ 内容の構成・排列については、第 1 学年では、「自然の美しさから生まれた」の題材において、建築や芸術作品に生かされている黄金比を紹介し、数学科との関連を写真等で示すなど、教科等横断的に学習することができるようになっている。第 2, 3 学年では、「どこまで修復すべきか」の題材において、美術文化の継承の意義や方法などを紹介し、道徳との関連を写真等で示すなど、教科等横断的に学習することができるようになっている。 また、北海道（胆振・苫小牧）にかかわりのある内容については、第 1 学年では、「刷って楽しむ版画の世界」において佐藤国男の作品が取り上げられているほか、「美術館へ行こう」では札幌芸術の森の野外美術館が取り上げられている。第 2, 3 学年では、「あなたのイメージを探そう」において安田侃の作品が取り上げられているほか、「暮らしに息づくパブリックアート」では、モエレ沼公園が取り上げられている。		

使用上の配慮等	○ 巻末で、「学びを支える資料」（全学年）として、技能の習得や題材に関連した鑑賞資料などを紹介したり、「暮らしに息づくパブリックアート」（第2,3学年）では、道内の屋外彫刻を紹介したりするなど、意欲的に学習できるよう工夫されている。 ○ 題材の冒頭で、生徒に身に付けさせたい力をマークや囲みで示したり、全学年の題材の随所で、造形的な視点を示したりするなど、主体的に学習できるよう工夫されている。（全学年） ○ 全ての生徒が学習しやすいよう、各題材の内容ごとに色で示したり、用具の安全な使い方や配慮すべき内容についてマークを示したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。（全学年）
その他	○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。